らした大きな影響は，それ迄の宇宙觀に新しい宇宙觀を注入した事である．その一つの大きな現はれが，儒家の宇宙觀自然觀に對してである．始めにも引用した中村湯齋の“天文考要”中の一節でも，此の事は明である．“架空の論多くして理氣の說に達して居らない”と述べて居る如き，當時の儒者の思想を代表してゐると云つてよい．他の大きな反響は釋氏の宇宙世界觀に對してであつた．之に關しては此處に唯だ義了道人の“釋教天文和談鈔”(文化三年)の凡例を引用して，この稿を終ることにする．

「……然ルニ明季ニ及テ西洋ノ邪教震且ニ傳來シテヨリ已來，彼徒專ラ天文ヲ以テ釋氏ヲ排斥セリ。我ガ神州モ亦同ジ。游藝ガ天經或問渡來シテヨリ以降，天文ヲ以テ佛教ヲ輕侮スル者少カラズ。所謂江源ノ慶安等是也，……」

〔附記〕入江の著はす“天經或問註解序圖”三卷は天經或問の序圖の註解であつて，本經の註解は序圖註解の卷尾に“本經註解六卷追刻”とあるが，實は版行されなかつたやうである．西村遠里著“天經或問註解”凡例によれば

此書本經二卷之註解也，以脩保叔序圖註解卷尾誌本經六卷追刻故愚俟之十有餘年而覓諸書肆亦數年然其書尙未行于世上也，愚竊疑脩保叔秘藏之而不與諸梓匠歟又或有名無實歟愚也以懇望之切而作本經二卷註解九卷及附錄三卷都十二卷焉

とある事よりも，入江の本經註解の刊行は無かりし事確である．

次に，西村遠里著“天經或問註解”は世上15卷と傳へられて居るが，實は上記の通り總て12卷であり，その中，後の3卷は入江氏“序圖解”3卷を加へたもので，“天經或問序圖”の彼自身による註解はない．卽ち，凡例によれば

此書序圖之解筑南久留米學官入江脩保叔著寬延庚午歲其書已成故讓之而愚解省焉……

之に附錄3卷卽ち

“万國圖釋”一卷，“采覽異”一卷，“古今天學家傳”一卷

を加へて，15卷である．(終)

質疑應答

問ひ：望遠鏡で照し合はせて見るに足る樣な星圖(ノルトンの如き)は，どんなものがありますか？(Yz生)

答へ：望遠鏡の視野と見比べるやうな星の圖と言へば，ストゥケルの星圖(7等星まで)とか，バイエル・グラフの星圖(9等星まで)とか，ボン星表の圖(9等半まで)とか，フランクリン・アダムスの寫眞星圖(15等星まで)とか以外にはありません．ストゥケルの圖は50圓ぐらゐ，フランクリン・アダムス圖は300圓ぐらゐです．ノルトンの星圖は6等星までですから，望遠鏡的ではありませぬ．(Y)